World Trends

発表日：2021 年1月8日（金）

ブラジル･ボルソナロ大統領は依然強気も、足元には問題が山積

～感染動向、景気の行方に加え、側近の汚職疑惑噴出など、次期大統領選に向けた視界は不良～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 西濵 徹（TEL：03-5221-4522）

（要旨）

- 世界経済は新型コロナウイルスのパンデミックを受けて大きく減速したが、その後は回復の動きを強めてきた。しかし、足下では感染再拡大による行動制限の再強化の動きが広がるなど、景気に冷や水を浴びせる懸念がある。他方、国際金融市場は「カネ余り」が続くなか、ワクチン開発期待も相俟って活況を呈している。原油価格の堅調さは産油国通貨の追い風となる動きがみられるが、ブラジルの通貨レアル相場は同国での感染再拡大が懸念されるなかで上値の重い展開が続いており、他の新興国と比較しても力強さを欠いている。
- ブラジルでは新型コロナウイルスを軽んじるボルソナロ大統領の下で経済活動が優先され、景気の底入れが進む一方、足下では感染再拡大が企業マインドの重石となっている。大統領自身はワクチン接種にも後ろ向きの一方、政府は経済活動を優先すべくワクチン確保に躍起になるなどちぐはぐな対応が続く。さらに、先月には大統領が応援するも落選したリオ市長が収賄疑惑で逮捕されるなど、2022 年の次期大統領選の行方を揺るがすことも予想され、今後はボルソナロ大統領を取り巻く状況は厳しさを増すことも考えられよう。

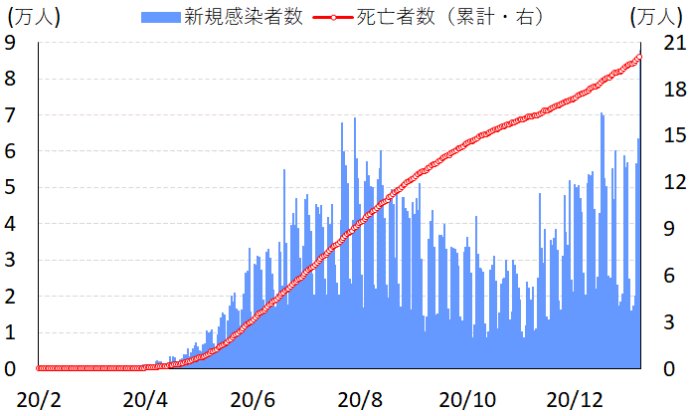
昨年来の世界経済を巡っては、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）のパンデミック（世界的大流行）を受けて大きく下押し圧力が掛かる事態に直面したものの、当初の感染拡大の中心地となった中国での感染封じ込めにより経済活動の正常化が図られたことに加え、欧米など主要国でも感染拡大の動きが一服して経済活動が再開されるなど、昨年末にかけては一転底入れの動きを強めてきた。しかし、欧米など主要国では感染が再拡大して行動制限が再強化される動きが広がりをみせているほか、新興国においても感染再拡大や感染収束の見通しが立たない状況が続くなど、景気回復の道筋に冷や水を浴びせる懸念がくすぶる。他方、国際金融市場は全世界的な金融緩和を背景に『カネ余り』の様相を一段と強めるなか、ワクチン開発の進展を受けて世界経済の回復が進むとの期待を反映して株式をはじめとする資産価格は上昇傾向を強めるなど活況を呈している。さらに、米大統領選でのバイデン前副大統領の勝利に加え、議会上下院両方で民主党が多数派となる『トリプル・ブルー』の実現を受けて、次期政権は財政出動による景気下支えを図るとの期待が高まり、国際金融市場の活況を後押ししている。このように実体経済を巡る状況と国際金融市場を取り巻く環境に差

図１ レアル相場(対ドル)の推移

（出所）Refinitiv より第一生命経済研究所作成

異が生じているものの、世界的な低金利環境が長期化するなかで一部のマネーはより高い収益を求めて新興国に回帰する動きがみられる。また、国際金融市場の活況に加え、主要産油国の枠組であるＯＰＥＣプラスによる協調減産の動きも相俟って国際原油価格は堅調な推移をみせており、産油国経済にとり追い風となる動きもみられる（詳細は７日付レポート「サウジの自主減産でＯＰＥＣプラス全体としては協調減産強化へ」をご参照下さい）。南米有数の産油国であるブラジルの通貨レアル相場を巡っては、同国内における新型コロナウイルスの感染動向が重石となる形で一進一退の動きが続いてきたものの、昨年末にかけては国際金融市場の活況も追い風に底入れする動きがみられた。しかし、足下では再び上値の重い展開が続いており、他の産油国や新興国などの通貨が比較的堅調な動きをみせている状況と比較して力強さに乏しい。同国では、ボルソナロ大統領が新型コロナウイルスについて「軽い風邪」と評するなど積極的な感染対策に後ろ向きの姿勢をみせてきたにも拘らず、感染者数の水準そのものは極めて大きいものの、昨年７月末を境に新規感染者数は頭打ちの動きをみせるなど、徐々に事態が収束に向かう可能性も見えてきた。しかし、昨年 11 月以降は再び新規感染者数が拡大傾向を強めるなど「第２波」が直撃している上、足下では感染者数のみならず死亡者数も拡大傾向を強めるなど、事態の深刻化が懸念される動きがみられる。特に、昨年末から年明けにかけてはクリスマスや新年のお祝い気分が広がりをみせたほか、ボルソナロ大統領も自身のＳＮＳに海水浴に出掛けて多くの人と会話する映像を掲載しており、こうした動きが感染拡大に繋がった可能性が懸念される。地方部においては感染者の急増を受けて病床のひっ迫が深刻化するなど『医療崩壊』に陥る警戒感が高まっており、今後も感染拡大の動きが一段と広がることが懸念されるなど厳しい状況に直面している。なお、同国の累計の感染者数は 796 万人と米国、インドに次ぐ水準ながら、累計の死亡者数は 20 万人を上回るなど米国に次ぐ水準に達しており、季節的に真夏であるにも拘らず感染収束の見通しが立たない状況を勘案すれば、先行きも一段と厳しい事態に陥る可能性は高いと見込まれる。

図２　新型コロナの新規感染者･死亡者(累計)の推移

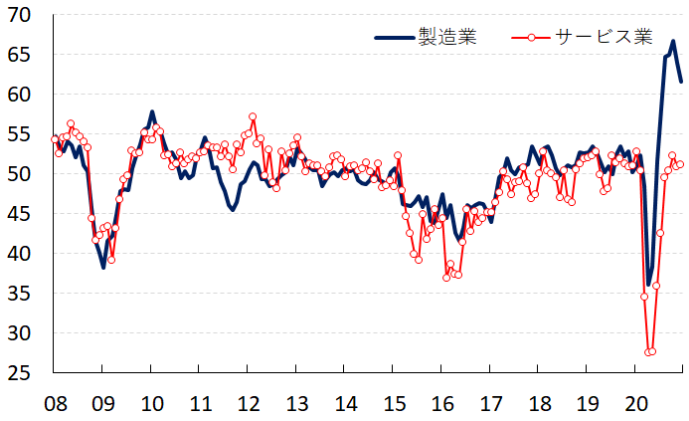


（出所）Refinitiv より第一生命経済研究所作成

同国経済を巡っては、ボルソナロ大統領が一貫して経済活動を優先する姿勢を示しており、貧困層や低所得者層を対象とする現金給付策や非正規雇用者に対する支援給付策などを実施したことに加え、世界経済の底入れを背景とする外需の底打ちなどを反映して、製造業を中心に企業マインドは大きく改善するなど景気の底入れが図られてきた（詳細は昨年 12 月４日付レポート「ブラジル、３四半期ぶりのプラス成長も自律性は乏しく、先行きも不透明」をご参照下さい）。ただし、上述のように頭打ちの動きがみられた新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増勢を強めており、地方レベルで行動制限が強化される動きが出ていることを反映して企業マインドは頭打ちする動きがみられるほか、先行きの感染状況が一段と悪化すれば急速にマインドが悪化する可能性もある。中銀は先月の定例会合において今年後半には金融引き締めに転じる可能性を示唆する動きをみせていたものの（詳細は昨年 12 月 10 日付レポー

ト「ブラジル中銀、将来的なフォワードガイダンス終了を視野に入れる動き」をご参照下さい)、新型コロナウイルスを巡る状況が急速に悪化していることを勘案すれば、スケジュールの後ズレは避けられそうにない。なお、ボルソナロ大統領は新型コロナウイルスを「軽い風邪」と評しており、ワクチン接種にも後ろ向きの姿勢をみせる一方、同国政府はワクチンの承認手続きを進めているほか、その確保に躍起になる動きもみられる。事実、経済政策を掌るゲジス経済相はワクチン接種を含めた政策対応を強化する姿勢を示す一方、ボルソナロ大統領はワクチン接種について「ワクチンに殺到するのは人命を弄ぶことになるなど正当化出来ない」と述べるなど対照的な姿勢をみせており、こうした政策運営を巡る方向性のちぐはぐさは事態収束を難しくすることも予想される。先月には、11 月に実施されたリオデジャネイロ市長選においてボルソナロ大統領の支援を受けて再選を目指すも落選したクリベラ氏が、現職市長として残りの任期を数日残して収賄容疑で逮捕されるなど、2022 年の次期大統領選で「反汚職」を掲げて再選を目指すボルソナロ氏にとって打撃となり得る動きもみられる。ボルソナロ氏を巡っては、既存政治との距離の遠さから汚職などと無縁と見做されているものの、大統領就任後は息子（エドゥアルド下院議員）の駐米大使就任を提案したほか、近親者を優遇すべく人事介入を行うなどの動きもみられた。新型コロナウイルスを軽んじる姿勢は多くの国民の批判を招く一方、経済活動の優先を目的とする現金給付を受けて貧困層や低所得者層からの支持は高まるなど賛否が相半ばしているが、側近による汚職疑惑の噴出は表面的にクリーンさを誇示してきたボルソナロ氏の足元を揺るがす可能性がある。新型コロナウイルス対応に景気動向、政局を巡る動きなど、今後のボルソナロ大統領を取り巻く状況は一段と険しさが増す事態も予想されよう。

図 3　製造業･サービス業 PMI の推移



（出所）IHS Markit より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。